

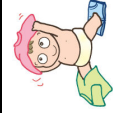


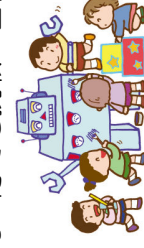


0歳から5歳の発達特性



キャッチフレーズ

発達の特性

0歳	おなかいっぱい たっぷりねんね 愛着関係で すぐすく成長 身の回りのことに興味か芽生え 五感で楽しむ 0歳児		0歳児は1年で出生時の体重は約3倍、身長は1.5倍成長します。消化吸収のよい母乳やミルク、5か月頃からは始まる離乳食の栄養摂取は、とても重要です。また、乳児が示す微笑み、感情を訴える泣き声など、様々な行動や欲求に大人が適切に応えることは、身近な大人との愛着関係を深めます。座る、這う、立つなどの運動機能も発達している、自由に手も使えるようになります。握る、動かす、なめるなどの探索行動を行ない、身の回りの環境に適応していきます。
1歳	おしゃべりのはじまり 片言 指差し 心が育つ 深まる信頼関係 何かな 何かな 1歳児		1歳児は、感情的な大人との関わりによって、自ら呼びかけたり、拒否を表す片言や一語文を言ったり、言葉で言い表せないことは、指さし、身振りなどで示し、自分の気持ちを伝えようとしてます。挙げるようになることは子どもにとって、自分の意志で自分の体を動かすことができるようになることであり、様々な物を手に取り、指先を使いながらつかまったり、捨ったり、引っ張ったり、物の出し入れや操作を何度も繰り返して、自ら環境に関わろうとする意欲を高めていきます。
2歳	走るよ 跳ぶよ まねっこだってできるよ 言葉で表現 しくさで表現 やってみようと 身の回りのことに挑戦する 2歳児		2歳になると、子どもは歩いたり、走ったり、跳んだりなどの基本的な運動機能が伸び、自分の体を思うように動かすことができるようになります。また、ことなどの簡単なこと遊びもできるようになり、イメージを働き交わすことにより、楽しさを味わいながら、盛んに言葉を使うようになります。イメージが自由にいく一方、わがままを通さず、など自我の芽生えとしての自己主張も目立ちます。指先の機能の発達によって、わがままが増えることが増え、食事や衣服の着脱、排泄など、自分の身の回りのことを自分でしようとする意欲が出てきます。
3歳	ひとりのできる 自分でやりたい 友達と一緒にいるのが嬉しい 3歳児		3歳児は、食事、排泄、衣服の着脱などがある程度できるようになり、何でも自分でできるという意識が育ってきます。語彙数も高めに増加し、日常生活での言葉のやり取りが不自由なくできるようになり、自己中心性も少しずつ解消していきます。また、言葉遊びや、盛んに言葉を使うようになります。この時期の遊びの多くは、場を共有しながらそれぞれが独立して遊ぶ平行遊びですが、他の子ども遊びを模倣したり、遊具を仲立ちして子ども同士で関わったりして、友達に関心を示す姿もあります。この遊びを模倣したり、遊具を仲立ちして子どもの行いや日常の経験を取り入れて、再演しながら、様々な人や物への理解を深め、予想や意図や期待を持って行動するなどの社会性を育てていきます。
4歳	葛藤体験を乗り越えて 友達とのつながりを深める いろいろなことにも興味か広がりが 活動的な 4歳児		4歳になると、全身のバランスをとる能力が発達し、スキップ、片足跳びなど、体の動きが巧みになります。身近な自然環境に興味を示したり、友達とイメージを共有し、想像の世界の中になつて遊ぶに没頭したりして遊ぶことも楽しむようになります。通そうとするとする思いと、時には自分の思い通りにまな、自意識を持ってようになり、自分の気持ちを伝えたいという気持ちが強くなります。このように、友達や身近な大人の気持ちに共感して、自分自身も受け入れられるようになります。
5歳	友達と協同して 遊びを創りあげる 自分で考え 何でも挑戦 自信がもてる 5歳児		5歳児は、一日の生活の流れを見通しなから行動します。この時期になると、中間の高さや中間の中で通用する約束事が大事なものととなり、それを守ろうとします。集団遊びが活発に展開され、遊びの中で役割が生まれます。子どもはその役割を担うことと、協同しながら遊びを経験を通して、達成感や自分への自信を持つようになり、様々なことに興味を示し、社会的な環境に関わり、言葉を使い、文字を書いたり読んだりする姿も見られ、社会現象や自然現象などに對する認識も高まります。また、批判したり、意見を述べたりすることもあり、自意識が高まることにも、自分とは異なる身近な人の存在や、それぞれの人の特性や持ち味などに気付いていきます。関係の広がりから自立心が高まり、就学への意欲や期待に胸を弾ませます。